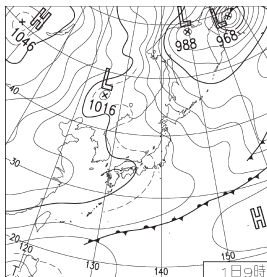


日々の天気図

— No. 59

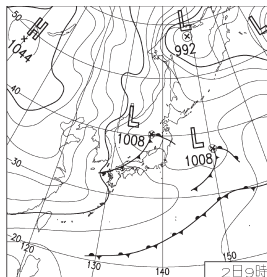
2006年12月

・26日～28日、急発達した低気圧により、東～北日本大荒れ。24時間降水量は岩手県普代村296.5mm、千葉県船橋町242.5mm、最大瞬間風速は東京都八丈町西見45.3m/s、栃木県日光市42.3m/sを記録した。
 ・29日、強い冬型の気圧配置。群馬県みなかみ町藤原76cm/24hの大雪。
 (気象庁予報部予報課)



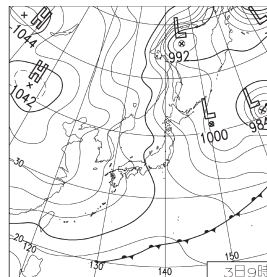
1日(金) 冬らしい師走スタート

冬型の気圧配置が続き、北日本や北陸～山陰は曇りや雪や雨。北陸では雷を伴う。北海道北西部は吹雪で見通し悪い所も。東～西日本は太平洋側中心に晴れて典型的な冬の天気。



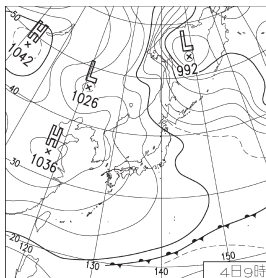
2日(土) 北日本では雪

稚内市上空約5200m付近に -42°C の寒気。日本海には前線を伴い東北東進中の低気圧。北・東日本の太平洋側で晴れの他は曇りや雨・雪。北海道では日降雪量30cmを超える所も。



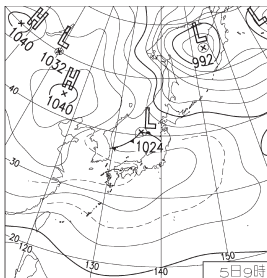
3日(日) 九州で真冬並みの寒さ

日本付近は冬型の気圧配置。北日本は日本海側で雪、北陸～山陰は雪や雨。東北、北陸の各地で初雪。長崎県対馬市厳原で日最高気温が平年より 6.6°C 低い 6.5°C 、真冬並みの寒さ。



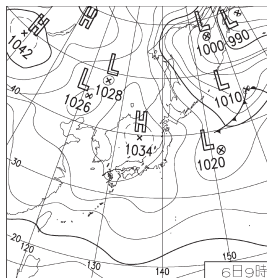
4日(月) 厳しい寒さ続く

冬型が続くが西から高気圧が覆い始める。東北北部から北の日本海側は雪。東北南部～山陰は雨や雪。その他は概ね晴れ。釧路支庁弟子屈町川湯の最低気温 -17.8°C 、1月中旬並み。



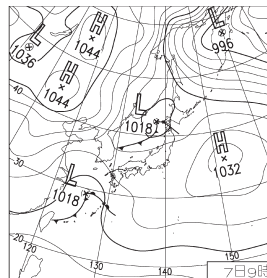
5日(火) 各地から冬の便り

東・西日本では放射冷却も加わり寒い朝。最低気温は真冬並みの所も。初氷は横浜市、松山市等10箇所、初霜は千葉市、大分市等12箇所で観測。台風第21号熱帯低気圧に。



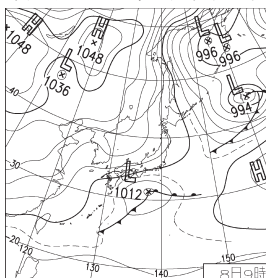
6日(水) 高気圧に覆われる

低気圧通過後の冬型は一時的。北陸から北の日本海側は曇りや北海道の内陸で雪、北陸や南西諸島で雨の他は全国的に穏やかな晴れ。北日本を除き朝の冷え込みも緩む。



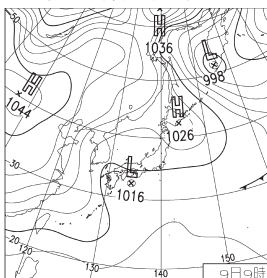
7日(木) 沖縄 猛烈な雨

北海道と九州の南海上を低気圧が通過。北日本は雪や雨、東日本は曇り、西日本は雨。南西諸島は積乱雲が発達し各地で非常に激しい雨。沖縄県粟国村 $85.5\text{mm}/1\text{h}$ の猛烈な雨。



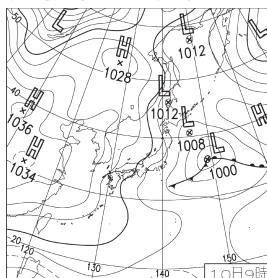
8日(金) 南海上を低気圧東進

北日本は弱い冬型の気圧配置。北海道の太平洋側や南西諸島で晴れの他は曇りや北日本の日本海側は雪や雨。東・西日本でも所々雨。フィリピンの東で台風第22号が発生。



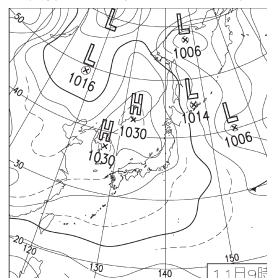
9日(土) 全国的に雨や雪

四国沖の低気圧や気圧の谷の影響で全国的に曇り北日本は雪その他は雨の所多い。北海道で朝の気温低く旭川市江丹別で -22.0°C 等 -20°C 以下の所多い。関東なども日中気温下がる。



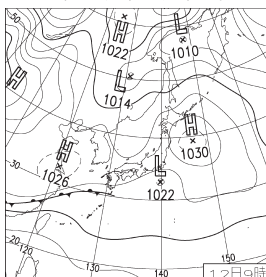
10日(日) 日本付近 再び冬型へ

日本海側は青森県以北で雪、その他は雨や曇り。太平洋側は晴れ一部で曇り。南西諸島は曇りや雨。最低気温は北日本で概ね平年並みの他は11月上旬～下旬の暖かい朝。



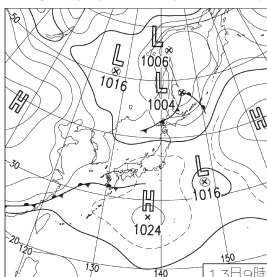
11日(月) ほぼ全国的に晴れ

日本海に中心を持つ高気圧に覆われ、北日本日本海側の寒気の吹き出しに伴う雪や雨も次第に止む。夜遅くには九州に気圧の谷が近づき弱い雨が降り出す。



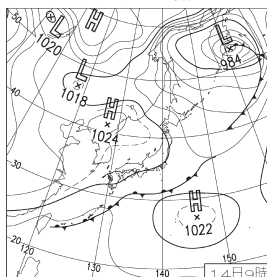
12日(火) 東日本 寒い一日

高気圧に覆われた北日本の一部と南西諸島は晴れ。他は気圧の谷の通過で曇りや雨。北日本の最低気温や東日本の最高気温は平年より低く真冬並みの所も。



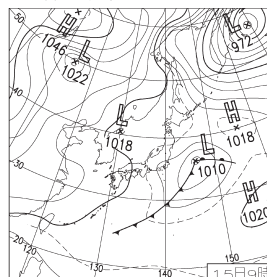
13日(水) 日本付近 気圧の谷

オホーツク海からのびる寒冷前線が北日本を通過。東シナ海から西日本の南には前線が停滞。北日本は曇りで午後から雨。西日本は雨で、雨域は次第に関東、東北まで北上。



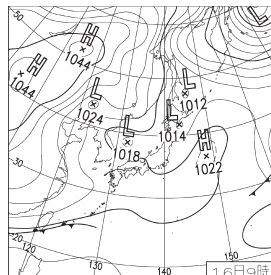
14日(木) 南海上に前線停滞

夜、前線上に低気圧が発生、東北東進。北海道東部で日中晴れた他は曇りや西日本の太平洋側や東海では雨。夜には関東、北陸、東北南部まで雨域北上。台風第22号は熱帯低気圧に。

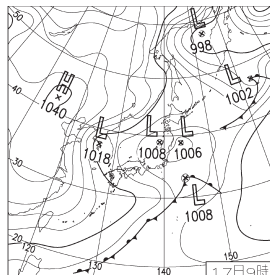


15日(金) 全国的に暖かい朝

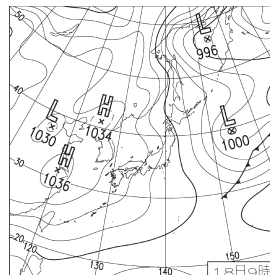
南岸低気圧による雨は朝までには止んだが、暖かい空気が残った影響で東北南部や西日本の所々で霧やもやを観測。日中は一部日本海側と南西諸島で曇りや雨、その他は概ね晴れ。



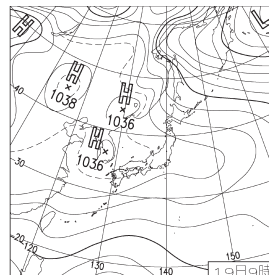
16日(土)北日本、低気圧通過
東日本の一部で晴れた他は曇りで北日本や北陸の所々で雨や雪。前日からの暖気が残り、東北南部や東日本を中心に暖かい朝。東北南部～九州の所々で霧。夜には西日本で雨。



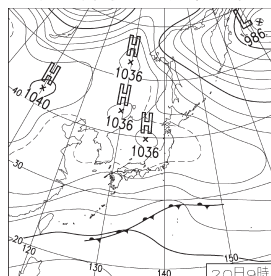
17日(日)九州で初雪
日本付近は初め気圧の谷となっていたが、九州から次第に冬の気圧配置。福岡市上空約5400mで-24℃の寒気。福岡市、松江市など九州北部～中国地方で初雪。台風第23号発生。



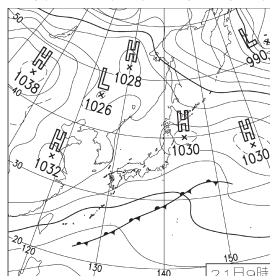
18日(月)冬の気圧配置
北日本の日本海側は雪、北陸から九州北部は雪や雨。北海道東部から九州にかけての太平洋側は概ね晴れ。関東・東海を除き最高気温は平年より2～4℃低く、松江市で6.5℃。



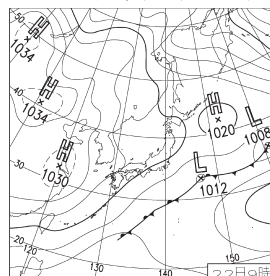
19日(火)台風第23号熱低化
北日本では冬の気圧配置が残るが、西～東日本は大陸から東進する高気圧に覆われる。北陸と北日本は曇り、一部で雨か雪。南西諸島は曇り、その他の地方は概ね晴れ。



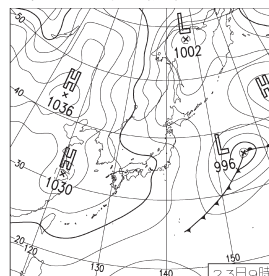
20日(水)初霜1か月遅れ
日本海の高気圧に覆われる。北海道日本海側、東北北部、関東南部で曇り、九州南部や南西諸島で曇りや雨の他は概ね晴れ。松江市、鳥取県米子市では平年より約1か月遅い初霜。



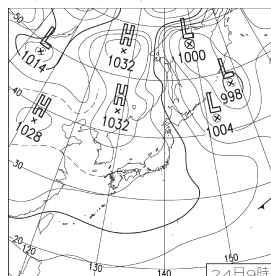
21日(木)八丈島 カエデ紅葉
日本の南には前線が停滞。南西諸島や九州南部は雨、北海道の一部や東海で晴れた他は全国的に曇り。九州は平年より6～9℃高い暖かい朝。宮古島市下地島空港で最大風速21m/s。



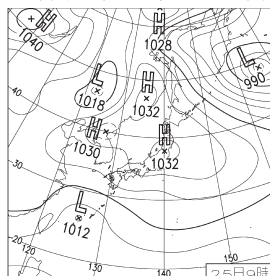
22日(金)冬至 暖かい朝
大陸を中心を持つ高気圧が日本付近に張り出す。北日本の一部と西日本で晴れの他は曇りや雨一部雪。最低気温は平年より5～6℃高い所も。宇都宮市では8.2℃高く11月上旬並み。



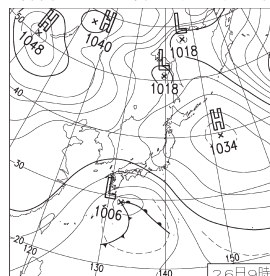
23日(土)北日本冬の気圧配置
午後北日本を気圧の谷通過。西日本は大陸の高気圧に覆われる。北海道は東部で日中一時晴れたが雪。東北や北陸は雨で雪の所も。東・西日本は概ね晴れ。



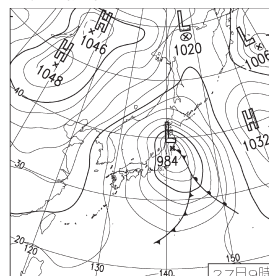
24日(日)北日本 冬型続く
北陸では曇りで所々雨や雪。北日本の日本海側も雪。その他の地方は近畿四国の一部で曇った他は概ね晴れ。北海道夕張市鹿の谷で21時までに47cm/24hの降雪。



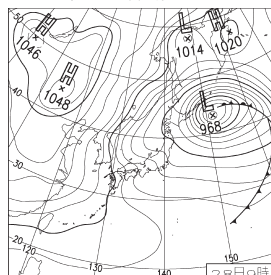
25日(月)穏やかなクリスマス
広く高気圧に覆われ、日中、九州南部や南西諸島で曇りや雨の他は概ね晴れ。気温は11月中旬～12月中旬並み。金沢市、和歌山市等で初氷。釧路支庁標茶町開運の最低-21.1℃。



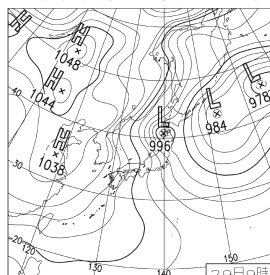
26日(火)季節外れの大雨
南海上を低気圧が発達しながら北東進。西～東日本の太平洋側を中心に大雨と強風。千葉県銚南町で日降水量226ミリ、東京都八丈町西見で最大瞬間風速45.3m/s。12月極値更新。



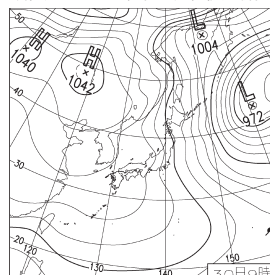
27日(水)関東～北日本 大荒れ
急激に発達した低気圧が本州の太平洋側沿岸を北上。栃木県日光市最大瞬間風速42.3m/s。岩手県普代村の153mm/3h歴代1位。全般に気温が平年より高く10月下旬並みの所も。



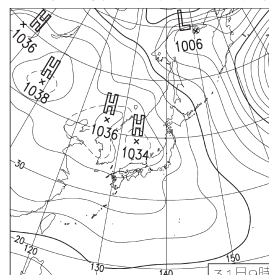
28日(木)九州北部、四国で雪
冬の気圧配置。北海道は雨や雪。東北から九州の日本海側で始め雨、午後から雪に変わる。関東は概ね晴れ。熊本市、大分市、高松市、高知市、広島市等で初雪。



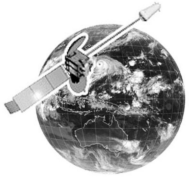
29日(金)強い冬型続く
日本海側や四国、東海、東北の太平洋側等で雪。一部で大雪。群馬県みなかみ町藤原で76cm/24hの降雪。日本海側を中心に風が強く、山形県酒田市飛島で最大風速27m/s。



30日(土)九州で軒並み冬日
冬の気圧配置も3日目、雪不足で閉鎖となっていた本州のスキー場もオープンへ。九州では最低気温が軒並み氷点下を記録。宮崎県五ヶ瀬町鞍岡で-9.5℃。伊豆大島等で初氷。

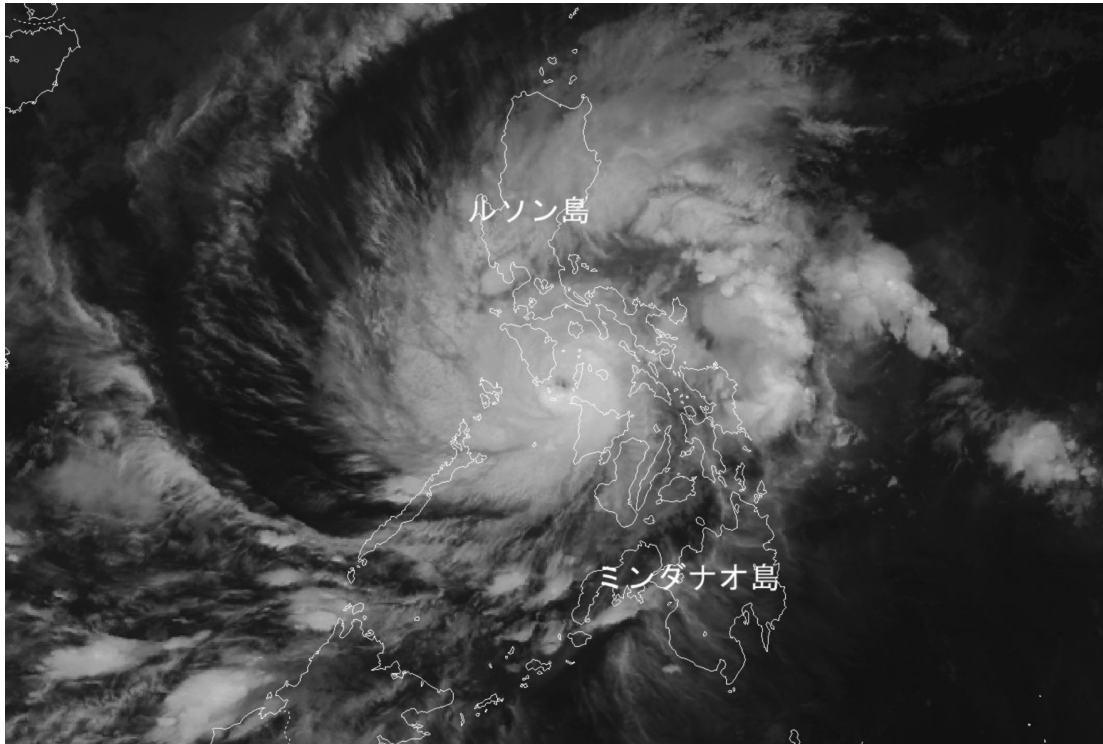


31日(日)穏やかな大晦日
冬の気圧配置は緩み、西から高気圧に覆われて西～東日本は日中穏やかに晴れる。北日本や北陸の雪も弱まる。高気圧の周辺部となった南西諸島は、湿った気流が入り曇りや雨。



今月のひまわり画像—2006年12月

フィリピンを通過中に眼ができた台風



2006年12月10日 9時の赤外画像

熱帯の海上では海面水温が高く、上昇気流によって発生した積乱雲がまとまって渦を形成し、渦の中心付近の気圧が下がり、台風が発生する。台風は水蒸気をエネルギー源として発達するため、海面水温が低い海域に進んだり、陸地上陸すると、台風に供給される水蒸気が少なくなり衰弱する。

今回、紹介する台風22号（ウタ）はフィリピン諸島を横断中に発達し、眼が形成された例である。2006年の台風は19号から22号まで4つ連続して同諸島を横断した。これらの台風の多くが、フィリピンの東海上で眼が形成され、同諸島を横断すると衰弱し眼が消滅した。

12月8日3時フィリピンの東海上で発生した台風22

号は、フィリピン諸島を横断中10日9時には眼が形成され955 hPaまで発達した。その後、14日15時には衰弱して南シナ海で熱帯低気圧になった。同諸島には、北部にルソン島、南部にはミンダナオ島という大きな島がある。台風が横断した中央部は小さな島々から成り、台風22号が通過した10日の同海域の海面水温は28～29℃と高かった。このため、台風は陸地等の影響をほとんど受けず、海面から水蒸気を十分供給され発達し、眼が形成されたものと思われる。

この台風22号の影響で5人が死亡、20人が行方不明となる大きな被害が発生した。

(気象衛星センター)